

憧れの心象風景

竹のような生一本さがあつた

命を支える勇気があつた

それでいてレモンの優しさの色彩も香りも

柔らかな水彩がつましく縁取りして

強さを内側から支えていた

心の交わりは性よりも激しく

二人を揺さぶり、過去をブレンドし

新たな味を生み出した

その味を持続させることを僕は恐れていた

カンバスを剥げば、その下は麻の繊維と木組みの枠だけ

足元には冷たい水の満たされたバケツが一個

床の上で笑っている

床の掃除が待っているのだ

やはり過去を越える未来は訪れなかった

ジャンピングボードは撓ったが、自らの足が萎えていたの
だろう

また崩れたフォームが切り裂いた水の祝福を受け

昔の山道に戻された

また歩き続ける

指導標を自分で見つけながら

歩く

そして突然倒れるまで

歩き続ける

まるでそれが刑罰であつたように

(2007.6.20)